

令和8年（2026年）度施策評価シート

令和 8 年 6 月 30 日

評価者	文化観光部長 高橋 謙司
-----	--------------

○ 施策の概要

総合計画上の位置付け	分野 2-(2) 文化	施策の方針	2-(2)-①文化活動の支援・促進
目標とするまちの姿	鎌倉のまちがこれまで歩んできたそれぞれの時代の文化を学び、そして触れることのできる環境が整っています。市民が質の高い文化に触れ、また、文化芸術活動の推進が図られることで、市民等の自主的な文化芸術活動が日常的に展開され、新たな文化の創造・発信が常に行われています。		
主な取組	(1)アートマネジメントの充実 より多くの市民が質の高い芸術に触れる機会を提供するため、芸術文化に関する情報を収集します。また、文化施策の研究と検討、企画立案を行います。 (2)参加・鑑賞機会と場の提供 多くの市民が鎌倉の特有の文化に気軽に触れるため、芸術文化振興の拠点となる市の施設が適正に維持・管理されるとともに、文化の質的向上と豊かな市民生活に寄与する文化事業を実施し、市民の文化活動への参加・鑑賞や場の提供を行います。 (3)文化・芸術活動の発信 鎌倉ゆかりの文化芸術の功績、資料等を広く市民等へ知らせるとともに、後世に伝えます。		

1. 前年度(評価対象年度)の当該施策の目標

- ①市民の文化芸術活動を促進するため、文化芸術活動の機会の提供や支援に取り組むほか、次世代を担う子どもたちに向けて、本物の芸術文化や伝統文化に触れる機会を提供する。
- ②引き続き、所管する文化施設を指定管理制度により効果的かつ効率的に管理運営し、より多くの方に利用していただけるよう工夫する。
- ③鎌倉文学館の大規模修繕については、令和11年4月に再開館できるよう着実に事業を進める。
- ④東アジア文化都市の各事業を通じ、事業の認知度を高めていくとともに、鎌倉が持つ歴史や文化の素晴らしさに触れる機会を創出する。

2. 投入コスト

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	517,483	460,190	544,958	597,325	707,794	732,700
人件費	60,929	58,766	62,260	50,432	66,891	123,418
総事業費	578,412	518,956	607,218	647,757	774,685	856,118

3. 施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果

重点事業	整理番号	事業名	法定受託事務	事業費(千円)	人件費(千円)	総事業費(千円)	事業評価	貢献度	最終評価
	文観-03	文化行政推進事業		22,133	17,947	40,080	現状維持	A	現状維持
	文観-04	川喜多映画記念館等管理運営事業		52,437	6,626	59,063	現状維持	A	現状維持
	文観-05	鎌倉芸術館管理運営事業		300,458	8,836	309,294	現状維持	A	現状維持
重	文観-06	鎌倉芸術館大規模修繕等事業		0	3,313	3,313	改善・変更	A	改善・変更
	文観-07	美術館建設準備事業		3,564	828	4,392	現状維持	A	現状維持
	文観-08	鍋木清方記念美術館管理運営事業		68,725	6,626	75,351	現状維持	A	現状維持
	文観-09	文学館管理運営事業		48,439	4,832	53,271	現状維持	A	現状維持
重	文観-10	文学館大規模修繕事業		64,435	6,765	71,200	改善・変更	A	改善・変更
	文観-13	東アジア文化都市事業		172,509	67,645	240,154	休止・廃止	A	休止・廃止

4. 評価対象年度の実施内容

- ①
- ・子どもたちの文化芸術活動に対する意欲を高め、その活動を支援するため、文化芸術の分野で優れた成績を収めた子どもたちの表彰式を実施した。【文化行政推進事業】
 - ・次世代を担う子どもたちに向けて、本物の芸術文化や伝統文化に触れる機会を提供するため、鎌倉子ども能及び伝統文化伝承事業を実施した。なお、伝統文化伝承事業では東アジア文化都市事業に関連したコンテンツを追加して実施した。【文化行政推進事業】
 - ・市民の文化芸術活動の発表とその鑑賞の場を提供し、鎌倉の文化の質的向上と豊かな市民生活を創造するため、市の主催により、市民及び鎌倉市文化協会からの推薦者によって構成される鎌倉市民文化祭企画運営委員会が企画・運営を担う「市民文化祭」を開催した。【文化行政推進事業】
- ②指定管理者制度による、所管文化施設(鎌倉市川喜多映画記念館、鎌倉芸術館、鎌倉市鍋木清方記念美術館)の管理運営業務を行った。
各施設ともに、来館者数増に向けて、より一層魅力的な展示を企画することや、展示解説等の実施など、集客の工夫を行うよう促し、特に鍋木清方記念美術館では、重要文化財の展示、NHKの広報などを実現させ、多くの来館者数を獲得した。【川喜多映画記念館等管理運営事業・鎌倉芸術館管理運営事業・鍋木清方記念美術館管理運営事業】
- ③鎌倉文学館では、令和8年度からの改修工事着工に向けて、埋蔵文化財発掘調査や、備品類の移設保管等を実施した。【文学館管理運営事業・文学館大規模修繕事業】
- ④関連団体及び関係行政機関で構成する東アジア文化都市2025鎌倉市実行委員会を組織し、中国(マカオ特別行政区・湖州市)、韓国(安城市)との伝統文化や青少年をはじめとする様々な分野での交流事業を実施したほか、鎌倉市で開催した開幕式・閉幕式における鎌倉の誇る伝統芸能の披露、市民や市民団体等が行う鎌倉の文化芸術の継続的な発展に寄与すると認められる事業又は活動の支援などを通じて、鎌倉の魅力と価値を国内外に広く発信した。(都市提携事業:国際交流課へ移管)

※実施できなかった事業とその理由

5. 成果指標

成果指標①		「文化活動が活発であり、新たな文化の創造・発信を行っているまち」だと感じている市民の割合 (鎌倉市SDGs未来都市計画 指標)						出典	市民アンケート調査	
初期値	令和2年1月	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	63.2	目標値	64.0	65.0	66.0	67.0	68.0	69.0	%	
		実績値	未実施	70.9	71.5	67.4	73.5	72.1		
		達成率	－	109.1%	108.3%	100.6%	108.1%	104.5%	%	
成果指標②		鎌倉市民文化祭観覧者の満足度						出典	所管課調べ	
初期値	－	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	－	目標値	－	－	80.0	81.0	82.0	83.0	%	市展(公募展)における満足度。新型コロナウイルス感染症感染拡大により、令和2年度全面中止、令和3年度一部中止のため、調査未実施
		実績値	未実施	未実施	95.5	92.0	92.8	93.5		
		達成率	－	－	119.4%	113.6%	113.2%	112.7%	%	
成果指標③		東アジア文化都市事業の認知度						出典	市民アンケート調査	
初期値	令和7年1月	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	－	目標値	－	－	－	－	－	50.0	%	令和6年度の目標値については、事業開始が令和7年1月であり、当初設定を行っていないため。
		実績値	－	－	－	－	8.2	17.4		
		達成率	－	－	－	－	－	34.8%	%	

6. 「施策の方針の成果指標」の達成状況等を踏まえた施策の達成状況の分析

子どもや市内高等学校等の学生作品の展示等を通じ、文化事業への参加機会の拡大が図られており、市民意識調査の結果も前年度と概ね同様であることから、一定の水準を維持している。

また、来館者満足度は高い水準で推移しており、特別展の実施等により来館者の関心を喚起し、来館者数の増加につながった。

一方で、成果指標である「文化活動が活発だと思っている市民の割合」は大きな伸びが見られないことから、引き続き文化活動への参加機会の創出及び周知啓発を進める必要がある。

市民意識調査における東アジア文化都市事業の認知度については、50%の目標に対して17.4%であった。一方、鎌倉市で実施した東アジア文化都市2025開幕式における来場者アンケート調査では、鎌倉市が東アジア文化都市に選定されたことに対する認知度が52.6%であったが、閉幕式における来場者アンケート調査では64.8%と12.2%上昇した。このことから、様々な事業を通じて市民の東アジア文化都市事業に対する認知度が一定程度、高まったものと受け止めている。

また、同アンケート調査における満足度においても、「大変良かった」「良かった」と回答した方が、80.8%から87.5%に上昇し、鎌倉をはじめ、中国・韓国が有する伝統芸能などを通じて、各都市の歴史や文化に触れる機会を提供することができたものと捉えている。

7. 主な実施内容と施策の達成状況の分析を踏まえた評価

※主な実施内容と目標とするまちの姿の関係(達成状況とその理由)

「施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果」における貢献度の分析

文化芸術活動の表彰、鎌倉こども能及び伝統文化伝承事業、市民文化祭の開催並びに各文化施設の管理運営を着実に実施したことにより、市民が文化芸術に触れる機会の提供及び文化活動の支援・促進に一定程度貢献した。 特に、子ども向け事業や特別展の実施により、次世代育成及び文化施設の魅力向上が図られたことは評価できる。
鎌倉市における開幕式をはじめ、様々な文化芸術イベントを通じて、日本のみならず中国・韓国の多様な文化に市民が触れる機会を創出することができた。加えて、市民団体や民間企業が主体となって実施する事業を認証事業や助成事業として支援することで、市全体で東アジア文化都市事業を盛り上げるができた。また、これらの取組が市民団体の自主的な文化芸術活動の促進の機会にも寄与した。 特に、東アジア文化都市の一都市である韓国・安城市とは、令和8年3月に都市間友好関係の持続的発展に関する協定を締結した。 協定では、東アジア文化都市事業をきっかけとして生まれた友好協力関係を今後も継続的に発展させ、さらなる相互理解の促進、大切に守り育ててきた芸術文化の次世代への継承と発展を目的としている。

8. 今後の方向性

鎌倉ミライ共創プラン2030 該当施策	3-2 芸術文化
今後も、市民ニーズを踏まえ、幅広い世代が参加しやすい文化事業の実施及び文化施設の適切な管理運営に取り組む。 あわせて、新たな分野の文化活動の取り込みや、費用対効果を考慮した事業展開を進め、文化活動の支援・促進を図る。	
鎌倉ミライ共創プラン2030 該当施策	3-1 都市交流
東アジア文化都市事業は1年間のみの実施であったが、中国・韓国の文化都市との交流事業で得られた友好関係を維持しながら今後も交流していく。 今後は東アジア文化都市事業で交流ができた都市に限らず、姉妹都市や友好都市等とも、本市の文化芸術や青少年の人材育成・交流促進の充実を図るため、事業を実施していく。	